

こもれび

冬

第8号

発行: 2006年1月1日
向陽台病院広報委員会



▲ 院内で募集し、その中から選ばれた句をデイケアメンバーが1文字ずつ書きました。



院長
横田 周三

明けましておめでとうございます。
2006年がスタートしました。
今年は障害者自立支援法など、精神科領域でも新しいことが始まります。昨年、当院では熊本保健科学大学の看護学実習生をお引き受けし、特殊外来(物忘れ外来、児童思春期外来)の開設を行い、安全管理に危機感を募らせ、マニュアル本の作成に携わってきました。今年も課題は山積みですが、病院組織が成熟するのを“主体的に待つ”ことができたらと考えています。
患者さん、スタッフはもちろん、何よりも自分自身の、当院の理念でもある“主体性”を意識して行けたら、と考えています。

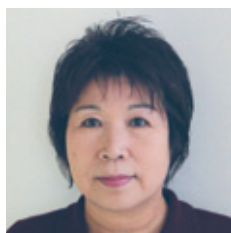
CONTENTS

- 新年のごあいさつ
- 病気のお話「AD／HDとは？」
- 地域連携
- 治療の流れその③「訪問看護」
- 地域型在宅介護支援センターもくれん
- こもれび・ぷらざ



明けましておめでとうございます。

新年のごあいさつを申し上げます。



企画室長
松山 陽子

皆さまにおかれましては、穏やかな正月をお過ごしのことと存じます。

ご存じの通り、今年の4月に社会保障制度が大きく変わろうとしています。

精神科医療に携わる私どもにも、社会の制度の変化とともに精神保健福祉活動の一翼を担う、地域に開かれた新たな機能を持った精神科病院が求められることでしょう。精神

保健福祉を取り巻く現状や諸制度を幅広く学習して、それぞれの業務に反映させ積極的に取り組むことが必要と考えます。限らない努力が求められる中、自分たちにできることを精一杯やっていきたいと思います。今後とも皆さまのご指導鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



安全管理部長
麻生 美子

向陽台病院における医療安全を総合的に推進していくために、昨年の10月から総合安全管理部長の拝命を受け、その役割と責務について日々心新たにしているところです。まずは、安全管理体制の整備を目標に、今まで各委員会が検討していた事故の予防と防止策についての問題点の把握や、事例の分析を通して組織としての改善策など検討していきたいと考えています。

事務部長
本山 和秀



今年は当院の理念である主体性・チーム・そして社会の一員というキーワード

を生かしながら、患者さまに、地域にそして向陽台病院職員にとって、私たち事務スタッフは何ができるのかを考える部門として、またサポートする部門として、貢献して参りたいと思います。楽しく、やりがいがある充実した一年になるようスタッフ一丸となってがんばります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



診療部長
城 勇士

昨年は1月に日本病院機能評価機構の認定を受け、外来では物忘れ外来、思春期外来を開設することができました。また医局、薬局においては新たに常勤4名を迎え、当院の方針である治療共同体理念に基づくチーム医療を念頭に、さらなる診療体制の充実を目指しております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

看護部長
澤田しず代



平成17年度の看護部目標達成に向けて、昨年は、熊本保健科学大学の看護学生の実地実習を初めて受け入れました。新風が舞う中、昨年10月から看護部も新体制でスタートしました。

看護の専門性と責任性を求めて“気づき”と“思いやり”のテーマを達成するために、まず自分たちの感性を高めていきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



リハビリテーション部長
植村 照子

昨年はスタッフを増員し、リハビリの質の向上に努めてまいりました。入退院数も多かったのですが、書類ミスもなく、作業療法活動も充実してきていると自負しております。皆さまに少しでもご満足いただける質の高い臨床活動をめざして、今年もがんばる所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

AD/HDとは？

「自閉症」「アスペルガー障害」「AD/HD(注意欠陥多動性障害)」「LD(学習障害)」といった言葉を耳にすることが随分多くなりました。これらをまとめて『発達障害』と呼びます。私たちの病院では、平成17年7月から、**金曜日の午後**に「**児童思春期(発達障害)外来**」を開いています。前回に続き発達障害についてご紹介します。



最近よく耳にするAD/HDとは、Attention-Deficit/Hyperactivity Disorderの略で、日本語では注意欠陥／多動性障害と言います。

原因は、今のところはっきりとは分かっていません。AD/HDの有病率は学童期の子どもにおいて3～5%であり、だいたい20～30人に1人はAD/HDのある子どもがいることになり、決して珍しい障害ではないと言えます。また、男女比は、女児に比べて男児の方が、4～5倍多いという統計があります。

AD/HDの基本症状は、以下の3症状です。

- ①**不注意**: 注意を集中しつづけることが難しい。必要な物をよくなくす。外からの刺激によってすぐ気が散ってしまう。
- ②**多動性**: じっと座っていることが苦手。手足をそわそわ動かす。しゃべりすぎる。
- ③**衝動性**: 待つことができない。人が話している途中で割り込む。他人の邪魔をしたり干渉し過ぎる。

診断基準では、こうした症状が複数の場面でも最低6カ月以上継続していることが必要になります。実際の診断は、客観的な検査が存在するわけで



はなく、行動観察と親・関係者からの情報収集によって行われます。

AD/HDのある子どもは、発達に伴い症状が変化していきます。基本症状は、2歳前後から目立ち始め、買物先で迷子になったり、交通事故の心配をしたり、親は気の休まるときがありません。我慢が足らず、我が強く、対人関係でも一方的な行動や乱暴な行動が目立ち、親は子どもに対して否定的な思いを強めることもあります。

保育園や幼稚園に入ると、待てないせっかちな行動や乱暴な行動から「困った子ども」と評価されやすく、集団に馴染めず、仲間はずれにあいやすく、自分も自分に対して否定的な思いを強めていきます。小学校に入ると、低学年時期はまだ基本症状が目立ちますが、高学年になると多動性が目立たなくなる場合もあります。

さらに年齢が上がると、次第に基本症状から、二次的な問題が重要視されるようになってきます。この時期、最も気を配る必要があるのは、子どもの自尊感情の低下です。親や教師から怒られる体験や仲間から疎外される体験が繰り返されると、子どもは「自分はダメな奴だ」という思いを強めてしまいます。

治療としては、学校や家庭で子どもの特性を理解することが第一

歩となります。努力をしない、怠けているという見方をやめて、この子どもに欠けている“やる気”を起こさせ、それを維持できるように、ご褒美やポイント制を作って周りが手助けをすることが必要です。つまり、できないことに対して怒るのではなく、できたこと、がんばったことに注目して褒めていくことが大事です。

症状が強い場合には、薬物治療を行うこともあります。しかし、薬物治療だけですべて解決するわけではなく、周囲の理解と手助けは欠かせません。また、親は「育て方が悪かったから」という誤解により苦しんでいることが多々あり、親への支援も検討する必要があります。カウンセリングやグループセッションで、子どもとかわかるコツを学んだり、子育ての大変さを分かってもらうことで、親が安定し、子どもにも良い影響を与えることがあります。

当院では、児童・思春期(発達障害)外来での治療やカウンセリング、また家族支援のための教室(博士クラブ：医師の指示のもと参加が検討されます)などを行っております。この障害をお持ちの方が少しでも生きやすく、過ごしやすい毎日になれるよう、今後もご一緒に考えていきたいと思っています。

(臨床心理士:大和 義孝)



屋内消火栓操法大会に参加して

「10月に屋内消火栓操法大会が行われるので、病院からも参加する予定です。参加者は誰がいいですか?」会議の中で議題が出ていたのですが、私は関係ないとよそごとのように聞いていました。

ところが突然、「責任者は南、看護部とリハ部から選手を選出すること」が決定しました。『室内消火栓操法? 何をするのか全然理解できない』。大会のための消防署での会議に出席し、内容が少しずつ理解できてきましたが、こんな操作が僕たちにできるのだろうかと不安になりつつ、選手は、看護師の金森・狩野、PSWの春木に決定しました。参加チームの少ない、女子の部に出場することになりました。練習は2時間ぐらいを4回もすれば十分だと思いついて計画しました。練習初日、消防署に行きましたが、先に練習をしているチームを見てびっくり!! 『みんなテキパキと行動している。こんなことはできない』と感じたのが第一印象でした。

練習を開始、まずは、規律訓練から始まり“気をつけ・休め・右向け右・回れ右・半ば右・敬礼の仕方”これだけでも疲れました。次は操法の手順の説明を聞きます。みんな、唖然とした表情をしています。

「こぎゃんこつはしきらん」「足のつる」「あぎゃん走りきらん」「まあ出るだけでんよかたい」病院へ帰る車の中での会話です。その後、同じよ

うな会話をしながら、4回の練習へと通いました。練習開始時に比べてテキパキと行動できるようになりました。他のチームは7回練習をしていると聞き、あと1回は練習しておきたい気持ちになりました。

大会当日小雨の中、入場行進が済み、いよいよ操法の開始です。みんな緊張している様子がうかがえました。出番は1組目、ホースを収納し操法の準備が終わり開始の合図を待つ、操法の時間は数分間でミスもなく終了。練習の時より本番が一番良かった感じがしました。

雨の降る中、他のチームの操法もテキパキ行動していました。10チーム参加した女子チームが終了し、男子チームも終了しました。「まあ、無事に終わったけんよかたい」。

成績発表。「優勝は…〇〇病院」と発表され、『あ～やっぱり上手だったもんな』と思っていると、「準優勝は、向陽台病院」と呼ばれました。



『えっ…うそだろ』まさか入賞できるとは、誰も思っていませんでした。年齢をかえりみず一生懸命走り、せりふを間違えないように寝る前に練習したり、手順を繰り返し練習したりと各自が努力していた結果だと感じました。

皆、涙。うれし泣きが終わった後の安心感か。何の涙かわかりませんが、みんなが何かを共有できた瞬間であつたように感じました。2年後に準優勝カップを返しに行きます。次はどんなチームで参加し、どのような操法大会になるのか楽しみです。向陽台のパワーがきっと発揮できるはずですよ。

(南2病棟 看護師長:南 精治)



チャリティバザールに参加して

平成17年11月13日(日)、熊本市上通りアーケード街で第13回精神障害者作品展示&チャリティバザールが開催されました。このイベントは、障害を持つ方々への理解とお互いに触れ合う“場”と“場”を持つことを目的として年に一度

行われています。今年は県内から30もの団体が参加し、当院からは生活支援センターなどで利用者1名と当院スタッフが参加をしました。当日は冬空の中、各団体工夫を凝らした作品や採れたての野菜などの販売が行われ、多くの人の賑わ

いが寒さを吹き飛ばしているように感じた。上通りのクリスマスツリーの横に置かれた当院の展示ワゴンには、院内作業で作成した竹細工や置きもの、デイクアや作業療法作品の革細工、陶芸作品、ビーズ細工などをツリーに負けない存在感で所狭しと並べることができました。行き交う人々が作品を手に取り、デイクア、作業療法作品は非売品であるにも

かわらず「売ってほしい」と言われ、うれしいような困ったようなことが起きました。また、当院唯一の販売作品である竹細工は例年にない売れ行きになるなど、興味・関心の高さがうかがえました。多くの人に絶賛された作品の数々はまだほんの一部であることを残念に思いながら展示ワゴンをたたみました。今回のイベントを通して当院を知られ

た方々やこの広報誌「こもれび」をお読みの皆さまが院内の取り組みや活動へ関心を持っていただけたら幸いです。イベントに参加するにあたり、作品展示や販売に協力していただいた皆さまに心から感謝いたします。

(作業療法士:美間坂 里絵)



も活発で大変有意義な時間を過ごしたそうです。

今回の文化祭はご家族や地域の方にも楽しめたものであったのではないかと感じます。初めて参加し、無我夢中のうちに過ごし、その中で楽しい時間を患者さんと共に過ごすことができました。そして、自分も楽しめるから参加された皆さんも楽しめる場になっているんだと感じました。とても良いものとして、自分の中に残ったことを嬉しく思い感謝の気持ちでいっぱいです。それも、ご協力いただいた全ての方のおかげであると感じます。来年度も楽しめるものになるよう、取り組んでいかなければいけないと思いました。今回経験したことを生かし、来年度の文化祭も楽しめるよう努めたいと思いますので、ぜひご参加くださればと思います。

(作業療法士:喜多 淳)



文化祭に参加して

平成17年11月19日、第14回向陽台病院文化祭が開催されました。私にとって向陽台病院に入職して初めての経験でした。これまでこういった行事には、学生時代しか参加したことがありませんでした。病院という場で行われることなど全てが初めての経験でした。いったいどうなるんだろうかと期待と不安の中での開催・参加となりました。文化祭当日は、朝は肌寒かったものの、開催時には快晴で徐々に汗ばむぐらいの陽気にも恵まれ、事故も無く無事行うことができました。

プログラムの演芸では、私は北病棟を担当していることもあり、病棟の演芸が上手く行えるのだろうかと不安がありました。しかし、そんな心配をすることは無用で、患者さんのすぐく楽しんでいる姿を見ることができ、心配したこと自体が間違っていたと感じました。また、各病棟、デイクア、一般参加の方などの演芸でも大変練習されたようで、演じてい

る方や見学している方の、生き生きとした笑顔を見ることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。また、サポートとして入ったアトラクションでは、ストラックアウトやビンゴゲームで、普段病棟で接している時とは違う患者さん達の姿を見ることができ、とても新鮮な気持ちになりました。参加する中で、こうした普段と違った行事のあることの大切さを感じることができました。また、私は午後からは、焼きそば・たこ焼き・串焼きの販売に力を入れていましたが、そこに買いに来る患者さんやそのご家族などさまざまな方に直接お会いすることができる良い機会をもつことができました。

また新デイクア棟(リュミエール)では、1時30分から3時まで東京女子大学・心理学科教授で精神分析医としてご高名な牛島定信教授に「人格障害の理解と対応」という講演をしていただきました。80名を超える盛況の中、講演後の質疑



訪問看護は、看護師2名と精神保健福祉士が携わっています。現在101名の登録者があり、一日平均8～9名を訪問しています。植木周辺が主な訪問先ですが、遠い所では当院から30km離れた所まで訪問することもあります。

退院された方々の自宅を訪ねてその生活ぶりを直接確かめながら、

本人や家族と生活の場で話し合いを持ちつつ、具体的に指導や援助を行っています。例えば、お薬をきちんと飲んでいるかどうかの確認や、不眠、飲酒、深夜のテレビなどで生活習慣が乱れることのないよう、あるいは家族や隣近所との人間関係の改善や生活上の悩みなどなどの相談やアドバイスをしています。また、買い物や掃除洗濯ができるように支援する、話を聞いて不安を軽減する、電話をかけるのを見守るなど環境を調整したり、困っていることやできないことを一緒に

考えることでその人なりのペースで生活ができるように援助を行っています。

私たちはよりよい援助を行うために、主治医や他のスタッフと連携をとりながら、情報の共有を図り、同じかわりができるように心がけています。そのためにも本人や家族との信頼関係を築くことが一番大切なことだと考えています。

そして在宅生活の継続ができるよう、少しでもその手助けになればと思っています。

(看護師：久永 澄子)

地域型在宅介護支援センター もくれん

もくれんは、新デイクア棟(リユミエール)内、にあります。植木町役場(高齢介護室)の委託を受けまして、平成16年4月に誕生しました。1歳半を過ぎ、時々つまづくこともありますが、やっと何とか歩けるようになりました。役割は、安心して在宅生活を続けていただくために、保健、福祉サービスの総合的調整を行い、必要に応じた支援をするところです。高齢者を取り巻くさまざまな課題の中で、認知症の問題も大きく、その早期治療への支援と地域への協力体制の一端を担っています。当法人は、特殊外来として「物忘れ外来(毎週水曜日午後)」を開設しており、もくれんの業務を側面から支えてもらっています。また、高齢介護室(すいせん)やケアビレッジ箱根崎(同じ在宅介護支援センターあじさい)の相談員の方に助けていただきながら、訪問や電話相談業務にがんばっています。

主な業務は、65歳以上の方の実

態把握をするための訪問調査を行っています。調査結果は役場・高齢介護室に提出しています。その時に、介護保険の申請や緊急通報装置の申請・配食サービスの申請などの手続きを説明したり代行を受けています。訪問するたびに、やさしい言葉があり、私の方が元気をいただいています。また、かがやき館での転倒予防教室やパワーリハビリ教室での健康活動と各地域での生き生きサロン活動に参加しています。その際に行っている血圧測定・健康相談の中で、私のほうが教えていただくことが多く感謝しています。サロン活動で輪をつくり、ゲームやストレッチをする時は、時間を忘れそうです。新しいゲームや体操は、次のサロンに紹介して広げていくようにしています。また随時電話相談を受け、必要に応じ訪問に出かけています。例えば…

- 介護保険の申請はどうしたらいいの?
- 買い物や料理ができなくなった
- 1人暮らしが心細い

- 話し相手がほしい
- ヘルパーさんに来てほしい
- デイサービスを受けたい
- 介護しているけど息抜きしたい
- 倒れた時が心配
- 健康づくりに参加したい など

このような時は、もくれんにお電話をいただきたいと思います。また、地区民生委員・区長・介護施設や病院の訪問ナース・ケアマネジャーの方との連携をとりながら、支援活動を進めています。まだまだ力不足のことが多く、ご迷惑をおかけしながら各ご家庭に訪問させていただいております。

もくれんの由来は、蓮の花、そして蓮は根っこで手を結んでいます。たくさんの人と手を取り合い、協力しながら活動できることを目標としています。「在介もくれん」の木が、根付きまますように、よろしくお願いします。

もくれん電話:096-275-1588

(相談員:中村 六美)





薬局 DI ニュース

糖尿病のお薬

今回は、糖尿病と薬についてのお話をしたいと思います。まずはインスリンという体内物質の役割と、よく耳にするブドウ糖との関係から。



インスリンが不足したり効きが悪くなると、体内でブドウ糖がうまく利用できなくなります。ブドウ糖は、私たちが生きていくための燃料として大切なものですが、ブドウ糖が無駄なく燃えるためには、インスリンが必要です。インスリンが不足したり、効きが悪くなると、ブドウ糖だけでなく、たんぱく質や脂肪組織もうまくいかなくなり、体全体の調子が乱れてきます。

このような状況を改善するため、現在たくさんの薬が開発されています。薬は食事療法と運動療法だけではコントロールが得られない時に使用されます。インスリンや内服薬は血糖を下げる働きをもっています。

さて、糖尿病とは、インスリン作用の不足による慢性高血糖を主な特徴とする代謝疾患です。種類は大きく2種で、1型糖尿病と2型糖尿病と呼ばれます。1型糖尿病とは、遺伝的背景(病気が遺伝するのではなく、病気になりやすい体質が遺伝する)を強く有しています。一方、2型糖尿病は、遺伝的背景と共に生活習慣(過食・肥満・運動不足・ストレスなど)に加え、加齢が大きく関与するものを指します。今回は2型糖尿病を中心に話します。

2型糖尿病に適応がある内服薬は、インスリン分泌を有するものと、有さないものに分類されます。前者にはスルホニル尿素系と非スルホニル系剤があり、後者には、ビッグナイド系、 α -グルコシダーゼ阻害剤、インスリン抵抗性改善剤などがあります。後者のビッグナイド剤については、腸からのブドウ糖の吸収をおさえたり、肝臓が糖を作って血液に出すのを抑えて、血糖上昇を防止します。 α -グルコシダーゼ阻害剤は食後の血糖が上がるのを抑える働きがあります。服薬については、低血糖などの副作用対処について把握しながら、規則正しく服用することがポイントです。(薬局長:金子 薫)

栄養だより

新年あけましておめでとうございます。

お正月といえば、「おせち料理」をイメージするでしょうか。こういったおせちやお屠蘇など、お正月のしきたりには健康や豊穡など、さまざまな願いが込められています。



おせちは正月元旦の朝に出し、年神さまを迎えて健やかな新年をお祝いし、一年の幸福を祈りながら食べる料理です。おせちを代表する縁起もので、「祝い肴三種」があります。これらは子孫の繁栄や、健康、豊作を願ったものです。

★**田作り**… 豊作を祝う縁起もので、田畑の土作りに「いわし」をいれたことに由来します。

★**黒豆**… 日に焼けて真っ黒になるまで「まめ(勤勉)」にし、わがよるまで息災に過ごせますようにと願いを込めたものです。

★**数の子**… 子孫の繁栄を願うものです。

おせち料理には、このほか肉・魚・卵・野菜・豆類などたくさんの種類の食材が使われ、栄養的にもバランスがとれていると言えます。かつては、日ごろ台所で働く女性に正月くらいは休んでもらおうと、作り置きのできる料理が中心でした。

(栄養課)

旬の食材

ぶり・まぐろ・さわら・かれい・たい・たら・海老・かに・たこ・牡蠣・春菊・ほうれん草・大根・人参・ごぼう・レンコン・ブロッコリー・カリフラワー・葱・桃・みかんなど…

これからの予定

2月……節分、バレンタイン

3月……春の旬の素材を使ったさまざまな料理のバイキング



編集後記

毎回、作成した広報誌は当院の関係機関などに配布していますが、その際「楽しみにしている」「ためになる」などの言葉をいただくことがありました。制作サイドとしては大変嬉しく、またさらにがんばろうと思う次第です。ただ、思いと行動は別物で、結局今回は最後にドタバタしつつの作成となりました。(濱本 晋也)

外来担当医一覧表

	月	火	水	木	金	土
午前	松岡 城	田中(隆) 松本 横田	横田 松岡	田中(隆) 城	横田 松本 大石	菊岡 週替わり
午後 予約	中林	城	田中(隆) 物忘れ外来 大石	松岡	津田 思春期外来 横田	

- 診療科目 精神科・心療内科・物忘れ外来(水曜日午後)
児童思春期(発達障害)外来(金曜日午後)

- 病床数 220床

- 外来診療時間

※新たに当院を受診される方は午後4時までに事前連絡のうえ、来院ください。

月～金曜日 午前9時40分～12時00分
午後2時30分～5時00分
土 曜 日 午前9時40分～12時00分

祝日は平常通り診療しています

物忘れ外来・児童思春期(発達障害)外来を開設しています

向陽台病院の理念

主体性を育む病院

援助者としてのチーム医療を行う病院

地域社会の一員を意識する病院



当院では平成8年から、のぞえ総合心療病院(福岡県)の治療共同体理念をモデルにしています。



産交バス
向坂バス停から
徒歩3分
明治乳業バス停
から徒歩3分

車
植木ICから10分

JR
植木駅下車
タクシーで6分



医療法人横田会 向陽台病院 <http://www.koyodai.or.jp/>

〒861-0142 鹿本郡植木町大字鐙田1025
TEL:096-272-7211・FAX:096-273-2355